

旧核融合フォーラムにおいて、平成 14 年度から平成 18 年度まで実施した活動や掲載などをご覧いただくため当面の間表示します。該当する最新の内容については、核融合フォーラムの発展継承となる [核融合エネルギーフォーラム](#) のホームページからご覧下さい。

○16:30 IFIMF-EVEDA(国際核融合材料照射施設の工学実証・工学設計活動)

調整委員会 委員 (大阪大学 教授)堀池 寛

<質疑応答>

【滝塚知典】 この核融合フォーラムでは、意見の集約という言い方を非常によく使っており、このサブクラスターの活動についても意見の集約という表現をされるのはよくわかる。しかし、意見の集約ということだけでくくってしまってよいのか。他にもキーワードがあるのではないかと思うのだが、意見の集約だけでいいとお考えか。

【堀池寛】 実際にやってきたことは、どういう研究のバックグラウンドが日本にあるのかを調べて、全日本的に整理するとどういうふうになるかという作業である。EVEDAはたぶんプロジェクトとして位置付けられており、先ほどの常松部門長の話にもあったように、次の建設フェーズに向かって何が一番大事かとか、6年間でどういうプロジェクトを運営するかといったことを中心に進められるものと思う。それに対して、日本の国内の大学と原子力機構の研究部門を含めてどういう材料が提供できるのかという情報を提供するという意味で、意見か情報かよくわからないが、情報の中には、これをやりたいとかやりたくないという部分も含まれるので、広く考えれば、意見の集約でもよいのではないかと考えている。

【高村秀一(司会)】 これは重要なポイントである。集約という言葉が独り歩きするのはいかがなものかと思う。

【内野浩】 IFMIFの装置を実際に設置する場所は日本か、それともフランスか。

【板倉室長】 日欧交渉の過程で、他の極がどこにもつくるつもりがないのであればヨーロッパが自分でつくる用意があると表明していた。その後も立場は変えていない。他方、日本は、IFMIFについて、とりあえずEVEDAはBAの中でやるが、実際の建設については少なくともBAの枠組みの中ではやらないとはっきり明言している。そういう意味では、このまま自然体でいけば、ヨーロッパで建設されることになるだろうと思われる。いずれにしても、まだ決定されていないというのが正確なところである。

【内野浩】 ITERの初期の段階にはカナダが入っていたのだが、最近ではあまり出てこない。カナダはもうITERから脱退したのか。

【板倉室長】 現在、参加極に入っていないので、脱退したとっていいと思う。